



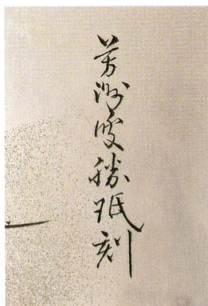
28 海野勝珉《山水図花瓶》一対

明治末期〜大正初期 銀／線彫ほか
各D一七・五、H三六・五

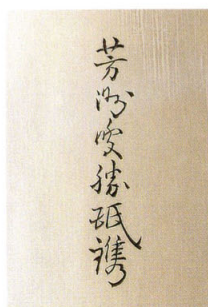
一対の花瓶のうち、左方は舟を浮かべた人物が向かいの山から流れ落ちる滝を眺めている場面、右方は山中の溪谷を臨む場所に庵を構える人物を老人と従者の子供が訪ねる場面を表している。伝統的な山水画の図様を様々な種類の彫刻によって、銀地に鮮やかに浮かび上がらせ、水墨画のような趣を持つ作品である。海野は完成した花瓶などを拓本にとって保管しており、本作の拓本も東京藝術大学所蔵の「海野家資料」のなかに含まれている。同資料には、狩野派、円山四条派など近世絵画から同時代の日本画に関する写しや印刷物が貼り込まれたものもあり、製作に際して図様の参考にされたと考えられ、本作も何らかの絵画作品を参照している可能性も推測できる。

本作は大正五年の立太子礼の折、男爵藤田平太郎より献上されているが、その前年の十月に作者の海野は没している。銘振りは前掲No.27と比べて、明治四十年代に製作された花瓶に近似しており、製作年はやや遡る可能性も考えられる。

花瓶(右)の銘



花瓶(左)の銘



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections